日本性科学会ニュース

第30巻 第1号　　平成23年（2011年） 3月

発行人：大川　玲子　印刷所：㈱ 絢 文 社

第40回性治療研修会

日　　時　2011年5月22日（日）9：30 ～ 16：30
場　　所　東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂
受 講 料　一般 15,000円　学会会員 10,000円　学生 3,000円
プログラム

9：30 ～ 9：35	開会の挨拶	日本性科学会理事長	大川　玲子
9：35 ～ 10：20	思春期のセクシュアルマイノリティへのカウンセリング（仮題）	しらかば診療所	平田　俊明
10：20 ～ 11：05	セックスワークと性の健康	大阪府立大学人間社会学部	東　優子
11：05 ～ 11：15	休　憩		
11：15 ～ 12：00	交渉中		
12：00 ～ 13：30	昼休み（13：00 ～ 13：30　日本性科学会総会）		
13：40 ～ 14：25	インテーク	日本性科学会カウンセリング室	金子　和子
14：25 ～ 16：20	カウンセリング演習	埼玉医科大学神経精神科・心療内科	塚田　攻
16：20 ～ 16：30	修了証授与		
	閉会の挨拶	日本性科学会副理事長	阿部　輝夫

第31回日本性科学学会／第13回性科学セミナー　第2回予告

日　　時：2011年10月2日（日）第31回日本性科学学会／ 2011年10月1日（土）第13回性科学セミナー
場　　所：東京慈恵会医科大学西新橋校1号館3階・5階講堂　〒105-8461 東京都港区西新橋3-25-8 TEL：03-3433-1111㈹
JR 新橋駅 烏森口より徒歩約15分、タクシー約5分、都営地下鉄三田線 御成門駅より徒歩約5分
参 加 費：日本性科学学会 5,000円（学生 1,000円）、性科学セミナー 3,000円（学生 1,000円）、
日本性科学学会＋性科学セミナー（2日間）7,000円（学生 2,000円）
会　　長：茅島　江子　東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授
メインテーマ：性の健康を未来につなぐ

特別講演Ⅰ　「環境因子と子どもの健康」　千葉大学大学院教授　森　千里
特別講演Ⅱ　「人権とセクシュアリティー日本とラテン社会のピアカウンセリング活動を通して－」
自治医科大学名誉教授　高村　寿子

会長講演　「性の健康と看護」
シンポジウムⅠ「看護における性の健康支援」
慢性疾患患者のセクシュアリティと看護　千葉県立衛生短期大学教授　大谷眞千子
女性脊髄障害者のセクシュアリティと看護
国立身体障害者リハビリテーションセンター看護師　道木　恭子
不妊症患者のセクシュアリティと看護　聖路加看護大学教授　森　明子
がん患者のセクシュアリティと看護　東京慈恵会医科大学医学部看護学科講師　渡邊　知映
シンポジウムⅡ「性暴力・性犯罪とその対応」
性暴力被害を受けた女性の支援　すぺーすアライズ室長　麻鳥　澄江
医療現場における性暴力被害者への支援　まつしま病院院長　佐々木静子
性犯罪加害者への治療　はりまメンタルクリニック院長　針間　克己
性犯罪加害者へのカウンセリングの実際　日本学術振興会特別研究員　石丸径一郎
一般演題

一般演題募集：一般演題発表を希望される方は、演者氏名、所属、連絡先の住所・電話・FAX 番号、抄録原稿600 ～ 800字程度を下記e-mail アドレスへお送りください。採否、詳細は後日連絡致します。なお、一般演題の発表はすべてパソコンプロジェクターを使用した口演のみとさせていただきます。
e-mail アドレス：jsss2011@email.plala.or.jp　締切：2011年7月28日（金）
合 同 懇 親 会：2011年10月1日（土）性科学セミナー終了後
〒105-0002　東京都港区愛宕1-6-6　TEL：03-3431-0109　新橋愛宕山東急イン　会費：4,000円
第31回日本性科学学会事務局
〒182-8570　東京都調布市国領町8-3-1　東京慈恵会医科大学医学部看護学科母性看護学領域
担当：細坂泰子、抜田博子　TEL：03-3480-1151　FAX：03-3480-4739
e-mail：jsss2011@email.plala.or.jp　ホームページ：http://jsss2011.plala.jp

Vol. 30
No. 1

日本性科学会
〒107-0062　東京都港区南青山１－１－１　新青山ビル西館３Ｆ
長谷クリニック内
TEL 03(3475)1780　FAX 03(3475)1789

〔症例研究会から〕

Persistent sexual arousal（PSA）またはPersistent genital arousal（PGA）の症例

日本性科学会　野　末　源　一
日本性科学会　阿　部　輝　夫

はじめに：女性性機能不全として一日に数回性的関心がないのにもかかわらず、性反応すなわち興奮期、オーガズム期を経験する症例が国際的に注目されており、私たちもそれを経験したので報告する。

症　例：56歳主婦

子ども3人、53歳で閉経。'09/6不眠・思考力低下にて精神科初診。うつ病の診断にfluvoxiamine (SSRI) 25mg/日の投与開始。3～4週で改善、12月より躁状態となりfluvoxiamine中止し炭酸リチューム200～400mg/日に切替えた。'10/3より「外陰部がムズムズする、性欲が亢進してる」と訴えが持続。10月婦人科受診。クリトリス、内外陰唇、腟、会陰肛門が腫脹。色も赤くなり充血の状態を示した。この状態は性交またはマスターベーションによって解消する。その後性欲や性的関心がないにも関わらず、突然、又ところを選ばず同様な症状が現れるので不快な感情が起きる。本人および夫に多大のストレスを与えるようになり、多くの病院を回り、脳波、MRI検査を受けたが異常所見なし。

経　過：本例に対する治療：禁煙希望者にvanicline を使用したところ、性欲亢進症状が治まったとの報告があり、本例にも副作用としてうつ状態再発の可能性を理解してもらったうえでvanicline tarttrate（チャンピックス,ファイザー製薬）を処方したが、再来がなく結果については確認できていない。精神科の方にもその後の経過を照会したが通院は中断してしまっており経過は不明である。

この症状が確立した疾患であるとの認識：この疾患が初めて文献に報じられたのは2001年である。(Leiblum, S.R., & Nathan, S.G.: Journal of Sex and Marital Therapy, 27, 365-380 2001) 特徴としては次の症状である。1 性的興奮(Arousal)と乳首の勃起および感じやすく（敏感に）なり、特に外陰部は充血して腫れ上がり分泌物が確認される。2 普通のオルガズムのように短時間で終わることなく数時間から一日中続くオルガズムの状態が何回も繰り返す。その後多くの報告がありLeiblumの編集によるPrinciples and practice of sex therapy (2007 The Guilford Press N.Y.)では女性性機能不全の中の一章をこの疾患にあてている。

考　案：この性欲亢進がflvoxiamineによるものか炭酸リチュームによるものか、あるいは躁状態のために生じたものかは明確ではない。fluvoxiamineの副作用としての性欲亢進は数例報告があるが、炭酸リチュームによる報告はない。躁状態による性欲亢進であるなら婦人科所見の外陰部の形態的変化までは起こらないであろうと思われる。

女性で思春期から発症した例も報告されている。acquiredのものでなくlife longに分類されるものである（The Journal of Sexual Medicine: 6, 1479-1486, 2009）。性反応は次に述べるように中枢神経、自律神経に支配されているため病名としては外陰部からこの症状が始まるという意味のPersistent Genital ArousalではなくPersistent Sexual Arousalの方が理に適っていると思う。日本語としてもっと適切な病名をつけうるのではないかと思われる。さらに後天的なこの疾患の発病のきっかけとして抗うつ剤（セロトニン再吸収阻害剤SSRIなど）と関係して発生することが報じられておりこの点は特に注目すべきである。現在仮説であるbiogenic amine theoryでは不安・うつ病はセロトニンとnor-epinephrineなどのmonoamineの不足によるとされている。このような神経伝達物質は1950年代の後半頃から研究が進み、特にドーパミンは外から与えても脳内に入らない物質であるがl-dopaを投与することによってこれを基質として脳内のドーパミンが増加ことがわかり現在臨床で使用されている。一方形態学でも、快楽中枢（James Oldsが1950年代ネズミで発見した）そして性反応も脳に支配されることはよく知られている。fMRIによる研究でオーガズムの際に活動する脳の部分として知られているのは視床下部、辺縁系（多くの核を含む）であり、セロトニンなどの神経伝達物質がどのように性反応に関係してくるかは基礎科学・基礎医学の今後の研究に期待し興味深いことであるが、本例ではこのようなモノアミン（セロトニン・ノルエピネフリンあるいはドーパミンなどの神経伝達物質が過剰に発生してこのような症状を起こしたことが想像される。

今後性欲障害、性嫌悪、性回避などを治療する新薬出現の可能性は十分あると思われる。この疾患の病名としては以上述べた理由でPersistent Genital Arousal (PGA) よりもPersistent Sexual Arousal (PSA) の方が病名としては妥当だと思われる。

まとめ：まだ日本名はないがPSAと思われる症例を報告すると同時に脳内神経伝達物質が女性性機能不全に有効であり得る可能性を述べた。

長池博子先生を偲んで

村口きよ女性クリニック　　村　口　喜　代

本学会の前進、日本セックス・カウンセラー・セラピスト協会の設立当初から会の発展にご尽力されてきました長池博子先生が去る1月15日午前11時30分亡くなられました。心から哀悼の意を捧げたいと思います。先生は本学会の理事を2003年までお勤めになられ、以降顧問としてご尽力いただきました。私は先生が1987年5月10日、仙台の地で第7回日本性科学会学術講演会の会長を勤められたことを機に学会に入会しましたが、以来先生には学会の幹事に推薦していただくなど、いつもお目にかけていただき、ご指導・ご鞭撻を賜りました。2006年同じ仙台の地で私も第26回学術講演会を担当することができ、先生に学会長講演の座長を勤めていただいたことは忘れがたい思い出です。謹んで先生に感謝の言葉を捧げたいと思います。

先生の生涯は、1999年出版の『女性よ賢くあれー母娘二代女医の道―』に凝縮されていますが、先生は開業医としての軸足を土台に、多方向にベクトルをめぐらし、一貫して弱い立場の女性の幸せのために生涯を捧げた方でした。子宮がん、腎臓がん、骨髄炎による片脚切断、肺がんと信じられないほどの数々の病気と闘い続けた人生でもあったにもかかわらず、いつもそのお姿からは、病気を陵駕した魂ばかりが燦々と輝いておられました。通夜、告別式には大勢の方々が列席し、会場は溢れんばかりの献花でいっぱいでした。これまでのたくさんの受賞歴からも先生の生きた証が偲ばれます。

昭和57年　仙台家庭裁判所所長表彰　　昭和63年　日本女医会吉岡弥生賞受賞
平成 4年　宮城県医師会長表彰　　平成 5年　文部大臣表彰
平成 7年　仙台市政功労者賞表彰　　平成10年　家族計画協会　松本賞
平成11年　男女共同参画社会づくり功労者内閣官房長官表彰
平成22年　日中友好協会創立60周年記念　日中友好貢献賞受賞

先生は地方の名士としても良く知られた方で、国会議員の要請もあったと聞いていました。亡くなって間もなく河北新報1面の「河北春秋」欄に以下の記事が載りました。

> 終戦直後、進駐軍の要請で東北大学病院の医局から出向した先は仙台市立診療所。夜の街から連れてこられた街娼の性病の検査と治療が仕事だった▼「20代半ばのあの経験が私の社会への目を開いたの」。仙台市の産婦人科医、長池博子さんは折に触れて話していた。家計を支えるため身を売る娘たち。追い込む世の中の女性差別に怒りが湧き上がったと▼女性医師が少ない時代、自身も差別を味わわされていた。根は同じだ。同じ性を持つ医者として常に女性の見方でありたい。その後の活動を貫く信念となった▼宮城県で初めて、女性の産婦人科開業医となった。全国に先駆けて40年近く前に性や体の悩みを受け止め相談所を開いた。女性の権利を求める市民運動にも積極的に加わった。県教育委員、仙台家裁調停委員など医療以外の仕事も幅広く手掛けた▼長池さんが87歳で亡くなった。「先見の明があると言われるけど、時を授かっただけ」。からりと笑っていた顔を思い出す。気さくで面倒見のよい人柄を慕う人は多い。女性の問題に取り組む後輩達をいつも温かく励まし育てた▼晩年は病気で片脚を切断し車いすの生活を余儀なくされたが、へこたれることなく驚くほど前向きだった。男女平等社会の生みのくるしみに寄り添い、生涯走り続けた人だった。

先生は生涯最後の仕事と申しておりましたが、1998年市民活動グループ「リプロネットみやぎ」を設立されました。1994年国連の場でコンセンサスを得た「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」を女性の一人ひとりに、草の根レベルできめ細かく届けたい、みやぎでも啓発・普及したいと医師、弁護士、教育者、行政、報道機関等社会の第一線で活躍する女性たちに呼びかけ、志高くその先頭に立たれました。私も設立当初から副代表に名を連ねていましたが、昨年から代表をバトンタッチさせていただきました。先生の意志を受け止め、次の方にバトンを渡すまで、しっかり継承していかなければと気持ちを新たにしております。先生安らかにお休みください。　合掌

車椅子で訪中し、宋健会長（左）から「中日友好貢献賞」の盾を受け取る長池博子先生　（平成22年10月15日）

このたびの東北関東大地震・津波に被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。日本全体の災害として、力を合わせて復興させましょう。特にこのような中での性の健康問題には深く関わって行きたいと存じます。

日本性科学会理事長　大川　玲子

セクシュアリティ調査ご協力のお願い

性科学会セクシュアリティ研究会では、1999～2000年に中高年有配偶者、2002～2003年に中高年単身者を対象に、性意識や性行動の調査を行いました。目的は中高年男女のより良い性生活、より良い男女関係を模索することです。

結果については、性科学会で発表し、性に関する臨床に役立てると共に、一般書「カラダと気持ち ミドル・シニア版」、「カラダと気持ち シングル版」（三五館）として発表いたしました。

10年一昔といいますが、10年前と現在では性に関わる社会状況は変化しています。また、年齢が10歳異なると性についての意識・行動も異なりことが予測されます。そのため、再度、セクシュアリティ調査を実施することにいたしました。

現在、セクシュアリティ研究会のメンバー7人で、友人、知人、関係団体、関係機関に協力を依頼し、約250のデータが集まっています。しかし、前回調査と比較検討するには1500程度のデータが必要です。

そのため、性科学会会員のみなさまの、知人、関係団体、関係機関などにアンケート用紙を配布していただきたく、ご協力をお願いする次第です。特に単身者のデータが集まりにくいと予測されますので、単身者にお渡しいただけると有難いと考えております。

調査目的：中高年男女の性についての考え、性的な欲求、パートナーとの関係や性生活などについて調査し、中高年の性に係わるニーズや問題を明らかにし、その解決やより良い男女関係に向けての方策を模索する。

調査対象：関東圏に居住する40歳～79歳の男女（有配偶者・単身者とも）
調査票の内容は、全員に回答していただく頁と、配偶者のいる方に回答していただく頁、単身の方に回答していただく頁の3つに分かれています。

調査時期：2011年1月～5月

調査方法：調査用紙と受取人払いの返信用封筒をお渡しし、返送していただきます。

ご協力いただける場合の連絡先

配布についてご協力をいただける時には、下記までメールをお願いいたします。その際、「お名前」、「郵送先」、「電話番号」、「調査用紙部数」、をお書き下さい。早速、「調査用紙」と「返信用封筒」、「アンケート調査ご協力のお願い文」を送付させていただきます。

連絡先：araki@dcu.ac.jp　田園調布学園大学　荒木乳根子

【セクシュアリティ研究会メンバー】

荒木　乳根子（代表）　石田　雅巳　大川　玲子　金子　和子
堀口　貞夫　堀口　雅子　渡辺　景子

セックス・カウンセラーセックス・セラピスト資格認定委員会報告

日本性科学会副理事長（認定制度担当）　阿部　輝夫

本年も日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2011年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示は、6月発行の日本性科学会ニュースに掲載されます。尚、更新該当者氏名（登録順）は以下の通りです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は御準備を御願い申し上げます。

また、同時に2011年度新規資格認定に関する告示もニュース6月号で行います。

資格更新該当者

セックス・カウンセラー　荒　木　乳根子
セックス・セラピスト　塚　田　　攻

会費納入の御願い

4月より新しい年度（2011年4月1日より2012年3月31日）にはいりますので、2011年度年会費（一般12,000円　役員15,000円　学生5,000円）の御納入を、宜しくお願い申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封致しますので、御利用下さい。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送り下さい。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員用の郵便振替用紙を送付致しますので、その用紙でお振込みを御願い申し上げます。